

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこんごうかい 一般社団法人 金剛会		団体ウェブサイトURL https://kongou-assoc.com/index.html
代表者職・氏名	代表理事 金剛永謹		
制作団体所在地	〒 602-0912	最寄り駅(バス停)	地下鉄烏丸線「今出川」駅 京都市上京区烏丸通中立売上る龍前町590番地 (京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅,6番出口より徒歩5分)
電話番号	075-441-7222		
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじんこんごうかい 一般社団法人 金剛会		団体ウェブサイトURL https://kongou-assoc.com/index.html
代表者職・氏名	代表理事 金剛永謹		
公演団体所在地	〒 602-0912	最寄り駅(バス停)	地下鉄烏丸線「今出川」駅 京都市上京区烏丸通中立売上る龍前町590番地 (京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅,6番出口より徒歩5分)
制作団体 設立年月	令和2年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 金剛永謹	理事 種田道一、弘田幸稔、金剛龍謹、 豊嶋晃嗣、宇高竜成 監事 吉村彰彦	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	豊嶋晃嗣
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	戸嶋直忠(税理士) 豊嶋祐三子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	support@kongou-assoc.com		

制作団体沿革	<p>「金剛会」は、1981(昭和56)年に、先代宗家である二世金剛巖(25世宗家)、金剛流能楽師と愛好家によって任意団体として創設され、長年、流儀の伝承、普及、後継者養成に寄与して参りました。2020(令和2)年4月には、さらなる発展のために、「一般社団法人 金剛会」となり、2020(令和2)年度には文化庁「文化芸術収益力強化事業」に参画、2021年(令和5)年度、2022(令和4)年度には、文化庁巡回公演事業に採択されるなど幅広い活動に努めています。</p> <p>【金剛流について】 能楽シテ方の流儀である金剛流は、古くは奈良の法隆寺に奉仕した猿楽座の坂戸座を源流としています。能楽シテ方五流のうち、宗家が京都に在住する唯一の流儀です。芸風は、豪快でめざましい動きの中にも、華麗・優美さがあり、「舞金剛(まいこんごう)」といわれます。また、豊臣秀吉から拝領した「雪の小面」や、金剛孫次郎自作の本面「面影」など、所蔵する能面・能装束に名品が多く、「面金剛(おもてこんごう)」とも言われています。</p>	
学校等における公演実績	<p>2015(平成27)年度 文化庁巡回公演 15校(京都能楽囃子方同明会採択分) 2016(平成28)年度 文化庁巡回公演 13校(京都能楽囃子方同明会採択分) (公社)京都市芸術文化協会「ようこそアーティスト文化芸術特別授業」 2017(平成29)年度 文化庁巡回公演 8校(京都能楽囃子方同明会採択分) 2018(平成30)年度 (公社)京都市芸術文化協会「ようこそ和の空間 伝統公演特別授業」 (公社)能楽協会「京都府次世代文化継承・発展事業」1校 2019(令和元)年度 (公社)京都市芸術文化協会「ようこそ和の空間 伝統公演特別授業」 (公社)京都市芸術文化協会「ようこそアーティスト文化芸術特別授業」 (公社)京都市芸術文化協会「夏休み芸術体験教室・発表会」 文化庁「能楽体験 教員セミナー ～能楽に触れてみよう～」 2020(令和2)年度 (公社)京都市芸術文化協会「ようこそ和の空間 伝統公演特別授業」 (公社)京都市芸術文化協会「ようこそアーティスト文化芸術特別授業」 2021(令和3)年度 文化庁巡回公演 受託 9校 2022(令和4)年度 文化庁巡回公演 受託 9校</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>2015(平成27)年度 文化庁巡回公演 1校(京都能楽囃子方同明会採択分) 2022(令和 4)年度 文化庁巡回公演 受託 1校</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無
	※公開資料有の場合URL	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 金剛会 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	能楽の魅力を見つけよう ～演出に注目!一人武者vs土蜘蛛～			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>金剛流の芸風には、写実性と、「舞金剛」と言われるような華麗・優美さを兼ね備えています。今回、上演する『土蜘蛛』は古来より金剛流得意の能として多くの人々に親しまれてきました。土蜘蛛の精が投げかける千筋の糸は、金剛流二十一世宗家・金剛唯一によって創案されました。</p> <p>1. ごあいさつ ・能のお稽古のはじめのご挨拶 ・本公演の流れの説明</p> <p>2. 狂言「柿山伏」について ・「柿山伏」の代表的な所作を体験してみよう</p> <p>3. 狂言「柿山伏」を鑑賞しよう! [15分]</p> <p>4. お囃子の紹介と体験 ・各楽器の実演と体験 ・ワークショップで習得した謡をお囃子付きで謡おう! <休憩10分></p> <p>5. 半能「土蜘蛛」を鑑賞する前に ・演目の紹介 ・能面・能装束・小道具の紹介と体験</p> <p>6. 半能「土蜘蛛」を鑑賞しよう! [20分] ※字幕付き</p> <p>7. 能楽師との交流の時間</p> <p>8. ごあいさつ ・能のお稽古の終わりのご挨拶</p>			公演時間 100 分
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>■狂言「柿山伏」 作者:作者不詳 典拠:宇治拾遺物語 山伏が無断で木に登って柿を食べているのを畑の持ち主が見つめます。持ち主は、山伏をからかって、柿の木に登っているのは動物だと言ひ、本当ならば鳴いてみると迫ります。山伏はカラスや猿の鳴きまねでその場を凌いでいましたが、最後に鳶の飛ぶまねをして大怪我をします。自分の罪を覆い隠そうとする山伏の滑稽な姿を、面白おかしく描いています。</p> <p>■半能「土蜘蛛」 作者:作者不詳 典拠:平家物語 病気で寝ていた源頼光(みなもとのらいこう)の前に見知らぬ法師が現れます。しかし、よく見るとそれは土蜘蛛の化身(けしん)で、蜘蛛の糸を繰り出し、頼光を襲ってきました。頼光が枕元にあった名刀で斬りつけると、その妖怪は姿を消しました。頼光は家来の武者たちに、土蜘蛛の妖怪を見付け出し退治するように命じます。武者たちが妖怪の巣を見付けその塚を突き崩すと、土蜘蛛の精が現れ千筋の蜘蛛の糸を投げかけて武者たちに向かってきますが、ついに土蜘蛛の精は退治されます。</p>			
演目選択理由	<p>■狂言「柿山伏」 狂言の代表作で、小学校の教科書にも採用されている演目です。子供たちにも十分に理解でき、バランスの取れた秀作です。擬音や動物の鳴き声の場面は、子供たちが思わず真似をしたくなり、いつまでも記憶に残ります。</p> <p>■半能「土蜘蛛」 能の演目の中でも、ストーリーが分かりやすく、見せ場も多い演目のひとつです。特に、激しい立ち回りの中で、土蜘蛛が蜘蛛の白糸を放物線を描くように次々と投げるシーンは、誰もが驚くショー的要素が強いものです。「土蜘蛛」は、児童・生徒にも、最後まで興味を持って鑑賞することができます。蜘蛛の巣を次々と投げる演出は、今ではジャンルを問わず見ることがありますが、この演出に用いられる白糸は、幕末から明治に活躍した金剛流第21世宗家・金剛唯一(右京氏成)により創案されたものです。小書「千筋之伝」も同氏の研究により編み出されており、この演出は現在、金剛流の上演する「土蜘蛛」の礎ともなっています。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【狂言の体験】(全員)/上演演目の1コマを演じてみます。</p> <p>【楽器の体験】(代表のみ+全員)/代表者により実際に楽器を演奏し、その他の児童・生徒は、手で拍子を打つ体験をします。</p> <p>【能の謡いの体験】(全員)/ワークショップで習得した謡をお囃子付きでやってみます。</p>			
出演者	<p>●シテ方(開催日により下記より、シテ1名、後見2名、地謡6名、働き1名 計10名) ◎金剛龍謹、◎種田道一、◎廣田幸稔、◎豊嶋幸洋、◎今井克紀、◎豊嶋晃嗣、◎宇高竜成、宇高徳成 ◎田中敏文、◎谷口雅彦、和田次夫、◎重本昌也、山田伊純、惣明貞助、向井弘記、湯川稜、中村洋臣</p> <p>●ワキ方(開催日により下記より、計2名)/◎江崎欽次朗、福王知登、◎原大、有松遼一、岡充ほか</p> <p>●狂言方(開催日により下記より、計3名)/大蔵流狂言方・茂山家一門</p> <p>●囃子方(開催日により下記より、計4名) (笛方) ◎森田保美、◎左鴻泰弘、杉信太郎、斉藤敦ほか (小鼓方) ◎吉阪一郎、◎曾和鼓堂、◎林大和、林大輝ほか (大鼓方) ◎河村大、◎石井保彦、◎谷口正壽、◎井林久登、渡部論ほか (太鼓方) ◎井上敬介、◎中田弘美、◎前川光範ほか</p> <p>●司会 豊嶋祐三子 ※◎印は、国定重要無形文化財総合指定保持者、日本能楽会会員</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 20 名	スタッフ: 3 名	合計: 23 名	<p>運搬</p> <p>積載量: 2 t 車長: 4.7 m 台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:30	9:30~11:00	13:30~15:10	10分	15:10~16:30	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	10日	15日	15日	
	11月	12月	1月	計	105日	
	15日	15日	15日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	体験により参加者全員
		鑑賞人数目安	会場の鑑賞可能人数まで

▼仮設能舞台のイメージ



▼半能「土蜘蛛」の蜘蛛の白糸を投げる場面



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 一般社団法人 金剛会 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	会場の入場可能人数まで
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>ワークショップ及び本公演に添ったテキストを事前にお送りします。</p> <p>①ごあいさつ ・能のお稽古は必ずご挨拶から始まり、ご挨拶で終わります ・指導者紹介とワークショップの流れの説明</p> <p>②「能楽」ってどんな芸能？ ・能楽についてレクチャー ・「土蜘蛛」のダイジェスト動画を観て能のイメージをつかもう！</p> <p>③能と狂言の違いって何？ ・能と狂言の基本を知ろう！ ・「泣く」や「笑う」などの表現方法の違いをつかんで、体験してみよう(全員体験)</p> <p>④能面・能装束の紹介と体験(代表者体験) ・先生に能面・能装束を着けてみよう！ ・代表の児童・生徒2名が能面を体験 ＜休憩＞(10分)</p> <p>※能面体験コーナーを設置します。 休憩時間等を利用し、児童・生徒に直に体験していただけます。</p> <p>⑤「能」を体験してみよう!(全員体験/代表者体験) ・仕舞「土蜘蛛」実演鑑賞 ・「摺り足」ってどうやってするの？ ・「舞」を舞ってみよう！ ・「土蜘蛛」の謡の一節をみんなで謡おう！ ・土蜘蛛の巣を投げかけてみよう!(代表者体験)</p> <p>⑥能楽師との交流の時間</p> <p>⑦ごあいさつ ・能のお稽古の終わりのご挨拶</p> <p style="text-align: right;">所要時間100分(途中休憩10分含む)</p>		
ワークショップの ねらい	<p>このワークショップでは、能楽とはどんなものなのかを、体験することで実感してもらい、親しみや期待をもって本公演へ臨むことができることをねらいとしています。</p> <p>能楽は、「能」と「狂言」の異なった味わいを持つ2種類の芸能で成り立っています。「能」と「狂言」それぞれの喜怒哀楽の表現の違いをやってみせながら説明し、実際に、「泣き」「笑い」の表現を体験します。</p> <p>「能」と「狂言」の対照的な芸能を比較しながら学ぶことで、「能楽における表現」をより深く理解することができます。</p> <p>また、代表の先生には装束と能面を、子どもたちの代表者には、能面を実際に付けてもらうことで、能面や装束を付けて演じることの難しさも実感します。日本の伝統工芸の粋が結集した能面・装束も間近でご覧いただけます。</p> <p>後半は、「構え」・「歩み」・「舞」・「謡」といった能の基本型を体験します。能の所作には、日本古来からの日本人ならではの美しい所作が盛り込まれています。</p> <p>なお、謡は、本公演の演目である「土蜘蛛」の一節を習得し、本公演では、お囃子付きで謡います。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>①「能楽」をわかりやすく纏めたテキスト小冊子を、児童・生徒全員に配布します。</p> <p>②数種類の能面を展示し、休憩時間を含む前後の時間帯に、間近でご覧いただけます。</p> <p>③代表の先生1名に能面・能装束を着付けます。休憩時間には、児童・生徒のみなさんに、より間近でご覧いただけます。</p> <p>④能楽師の実演やお話と併せ、プロジェクターの映像を見ながらわかりやすく解説するため、スクリーンの借用をお願いします。その他、マイク2本、長机4台、折り畳み椅子6脚、延長コード1台、更衣室1部屋をお貸しいただけますと幸いです。(プロジェクター本体は持参いたします)</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 一般社団法人 金剛会 】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 「金剛会」はこれまで任意団体として活動してきましたが、「能楽」の普及・啓発に係る企画運営及び実施について、組織的に展開できる体制を強化するため、メンバーの総意により2020年4月に法人化し「一般社団法人金剛会」となりました。今後の活動においても、その課題や成果を組織全体で共有することで、個々の能楽師の活動活性化はもとより、流儀の発展、さらには社会や地域への普及・啓発へ繋がる様々な活動の実践を目指します。 ついては、本事業で下記に重点を置いて取り組みます。</p> <p>(1)子供たちが実際に鑑賞する機会の創出 次世代を担う子供たちへのアプローチは大変重要と考えています。知名度や実績などにとらわれない、感受性豊かな子供たちにこそ、本格的な「能楽」に接して欲しいと考えています。</p> <p>(2)次世代へ繋ぐために、教育現場に携わる大人の関心を高め、理解を深めたい 古来から続く伝統・文化を絶やさないために、次世代を担う子供たちと日々接する教員等の役割は重要と考えます。この機会に、教員等が「能楽」への関心を高め、理解を深めていただけるよう、事前打ち合わせや資料提供などを丁寧に行います。</p> <p>(3)「日本の美」が凝縮された能楽を通じて自国の文化を知る 日本古来の美しい言葉を宿す謡、洗練された舞(所作)、伝統工芸の粋を極めた装束、多彩な能面など、見ても、聞いても、美しいものばかりが用いられていますが、それらをまとめ上げ、ひとつの芸術的舞台に昇華させているのが、脈々と続く「伝統」を受け継ぐ能楽師です。能楽に触れることは、多彩な「日本の美」に触れることでもあります。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 ア、初めて能を観る子供たちが大半である事を踏まえ、楽しく、わかりやすく、子供たちの目線に寄り添い、プログラムを進めて参ります。</p> <p>イ、事前ワークショップおよび本公演を通じ、児童・生徒、そして先生を含めた全員に「能楽」への理解を、楽しみながらより深めていただけるよう、観る・聴く・体験するをバランスよく配置したプログラム構成を目指します。</p> <p>ウ、事前ワークショップおよび本公演共に、プロジェクタースクリーンを使用します。能楽師の実演やお話しに加えて、動画や写真、文字情報などを投影しながらプログラムを進めて参ります。また、本公演の能「土蜘蛛」鑑賞の際にはセリフの字幕を投影します。</p> <p>エ、能楽を分かりやすく理解できるようにイラストや写真を盛り込んだオリジナルのテキスト冊子を作成します。</p> <p>オ、学校の先生からの問い合わせや調整に対しては、学校教師や同種事業の長期経験者を本事業担当チームへ配置し、的確に分かりやすく対処・説明ができるよう、体制を構築します。</p> <p>カ、学校側の担当者の先生向けに、事業の受入れのための資料を作成の上、丁寧に打合せいたします。</p>
--	---